

札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会第11回総会

日 時 令和7年6月20日（金）10：00～11：20

会 場 ORE札幌ビル 8階 会議室1

次 第

1. 開 会

2. 議 事

次期運営計画の策定について(4)

3. 閉 会

1. 開 会

○石井会長 それでは定刻となりましたので、ただいまより第11回札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会を開催いたします。はじめに事務局からお願いいたします。

○事務局（藤田） 保健福祉局ウェルネス推進部施設管理課長の藤田でございます。本日はお忙しい中、お集まりいただき、どうもありがとうございます。まず、本日の出席状況でございます。本日は山上委員が欠席となっております。また、中島委員が遅れて到着するというご連絡をいただいております。本日、中島委員を含めて9名の委員にご出席いただくことになります。

本日の会議ですが、報道機関3社、HBCさん、北海道新聞さん、北海道建設新聞さんが傍聴しております。会議資料や議事録につきましては、従前通りホームページにて後日公開いたしますので、よろしくお願いいたします。

次に、お手元の資料を確認いたします。事前にお送りした資料といたしまして、スライドの資料、それから第2次札幌市火葬場・墓地に関する運営計画ということで前回の総会からの修正案をお渡ししております。また、本日お配りしている資料といたしましては、会議次第、委員名簿、座席表、それから火葬場の成果指標に関する追加資料ということでカラーの資料が1枚となっております。不足はございませんでしょうか。

では、事務局からは以上となります。

2. 議 事

○石井会長 それでは早速議事に入らせていただきます。お手元の式次第に沿って、議事「次期運営計画の策定について(4)」について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（高橋） では、スライド資料を用いて説明してまいります。本日の議題は1件となっております、「次期運営計画の策定について(4)」です。今回で4回目となります。

では、3ページをご覧ください。策定までの流れとスケジュールは以前よりお示ししている通りです。前回5月23日の総会では、第2次計画の素案をお示ししまして、現状、問題点、取組についてご議論いただきました。本日は計画策定に向けて、引き続き計画案に対するご意見をいただければと思います。今回お示ししている計画案については、前回いただいたご意見の反映に加えて、事務局でも改めて内容を精査しており、また成果指標や参考指標についても、それぞれ数字を示しております。この後の4ページ以降には、前回いただいたご意見と、それに対する札幌市の考え方を示しておりますので、順にご説明いたします。

では、4ページをご覧ください。ご意見について、意識醸成、火葬場、墓地のテーマごとに分類し、類似意見をまとめて左側に番号を振っています。右側に札幌市の考え方を回答として記載しており、計画の修正を行ったものは、そのページ数を記載していますので、必要に応じてご参照ください。一部については、表の下部に修正案を記載しています。

それでは、市民の意識醸成の分野です。

まずNo.1ですが、計画期間5年間で札幌市は何を発信し、どんな市民ニーズを把握した

いのかを整理すべきというご意見をいただいております。これに対して、発信したい内容は2つで、1つ目は火葬場墓地の問題や行政の取組について、2つ目は、終活に関して情報を求める市民に対し、必要な情報を提供したいと考えております。次に把握したい内容としては、こちらも2つで、1つ目は葬送に関する困りごとやニーズ、2つ目は葬送に関する動向を把握したいと考えております。

No. 2です。情報発信を行うより、個別対応にシフトするのが良いのではないかとというご意見をいただいております。これについてですが、生前のうちから葬送について自分ごととして考え、行動してもらうために、行政からの発信は、引き続き必要だと考えています。一方で、情報を求める市民が必要な情報を得られていないという現状がありますので、終活ネットワークにより適切な窓口につなげていくこととしています。さらにイベントについても、家族構成や性別、年齢、職業など、参加者の属性によって関心のあるテーマは異なりますので、テーマやターゲットを絞って開催することで、より深い内容の情報提供ができ、個別のニーズに応えていくことができると考えております。

続いて5ページをご覧ください。No. 3ですが、若い世代の人の意識醸成に関して、発信方法よりも企画内容が大事であるというご意見です。また、民間活用・連携により若い人たちを呼び込めるのではないかとというご意見をいただきました。これについては、若い世代の人が関心を持つような企画をすることを計画に記載したいと思います。44ページの記載を表の下部に抜粋して書いております。

続いてNo. 4です。今後は、高齢者もインターネットを使える層が増えてくるため、そのことを考慮した記載にした方が良いというご意見でした。そのため、高齢者について、活字に加えてWebも可能な範囲で活用していく記載に修正をしたいと思います。

続いて6ページをご覧ください。No. 5ですが、意識醸成の成果指標について、終活イベントの参加者数のような全体を見る指標ではなく、若い人や男性など、課題としている層の参加率や参加者数を指標としてはどうかというご意見をいただきました。これを受けて、若い人の参加者数を成果指標とし、男性の割合は参考指標としたいと考えました。表の下部に抜粋してありまして、成果指標は20代および30代の終活イベント参加者数とし、目標値30人が事務局案です。若い人向けのイベントを企画・開催し、目標の達成を目指します。参考指標は、終活イベント参加者の男性の割合で3分の1の33%まで引き上げることを目指します。

続いてNo. 6です。意識醸成の内容を里塚斎場再整備のための地域住民の理解促進に注力してはどうかというご意見です。里塚斎場再整備については、令和9年度に計画策定を目指しているため、今年度、もしくは来年度の冒頭には地域住民の理解を得ていく必要がありますので、第2次計画の計画期間5年間の内容としては、No. 1で示したような火葬場や墓地の課題・取組や、情報を求める市民へ情報を提供するというのが良いのではないかと考えております。

7ページをご覧ください。ここから多死社会に対応した火葬場の分野になります。まず

No. 7ですが、里塚斎場の再整備に関して、工事費の増加を課題として記載した方が良いというご意見です。これについては問題点として、近年の物価高騰による工事費の増を追加するとともに、取組にはPFIによる財政支出の削減の検討を追加いたします。表の下部に記載を抜粋しております。

No. 8です。里塚斎場の再整備について、近隣市町村分の火葬も考慮しているかというご意見です。里塚斎場の再整備の検討においては、現在受けている近隣市町村分の火葬も含めて設備規模を検討しておりますので、これが読み取れる記載に修正いたします。

No. 9です。他市町村との共同利用を計画に明記する考え方もあるのではないかというご意見です。これについては、現時点で事務組合の設立や事務委託などの確定的な事実がないため、記載を見送りたいと思います。

No. 10です。火葬場の広域利用について、前向きな位置付け・書き方が良いのではないかとご意見です。そこで、北広島市・石狩市との取組のところに、今後の札幌市の火葬場利用の方針決定に向け、検討を進めるという記載に修正いたします。

続いて、8ページをご覧ください。No. 11ですが、残骨灰等の無害化処理により得られる有価物の引き取り収入やその活用について、遺族への配慮が必要であることへのご質問やご意見でした。収入を全く関係ない事業に使用するのではなく、火葬場の整備・運営に使用することが配慮であると考えていましたが、ちょっと伝わりにくいため、別の表現に修正いたします。表の下部に修正案を記載しておりまして、問題点を「無害化処理の過程で生じる金や銀などの有価物の引取により得られる収入の使い道について、誤解を招くことのないよう、透明性の確保が必要です」とします。また、本文の方ですが、今後の考え方として、収入を火葬場の整備・運営に活用するとともに周知を進めるという内容の記載をしております。

No. 12です。残骨灰等の無害化処理の前に、そもそも有害物質の原因を取り除いて有害物質を減らすことはできないかというご意見をいただきました。これについては、ダイオキシン類の話となりますが、副葬品としてプラスチック製品や水分の多い果物など燃えにくいものを入れた場合、不完全燃焼を起こしてダイオキシン類の発生の原因となるため、副葬品の制限について周知啓発を行うこととし、計画にも記載いたします。

9ページをご覧ください。No. 13ですが、残骨灰等に有害物質が含まれていることや、有価物収入があったり、それを火葬場の運営に使っていることが一般市民に認知されていないのではないかというご意見です。No. 11とかぶる部分もありますが、収入やその活用について広報していきます。

No. 14です。残骨灰の無害化処理について、透明性を確保しながら全体のコストバランスを見て進めてほしいというご意見です。透明性の確保について計画案に追記いたします。

No. 15です。成果指標の設定について、利用の平準化がどう進むか、目指す方向性を分かりやすく捉えられる指標が良い、必要な人に必要な行政サービスが行き渡ることが重要で、東京のように1週間待たされるようなことがない状況になっているような指標が良いので

はないか、というご意見でした。これに関して、事前にお送りした資料では、火葬場の予約枠がすべて埋まった日数というのを成果指標にして、目標は0日というのを検討していたのですが、先日、石井会長に事前説明をさせていただいた際に、利用の平準化という意味で、友引の火葬件数を増やすような目標もあるのではないかとというご意見をいただきまして、事務局の方でも再検討しまして、本日追加資料をお配りしておりますので、一度そちらをご参照ください。まず、考え方の部分ですが、第2次計画においては、施設の更新等が主な取り組みとなりますので、成果指標は取り組みと直結するものではなく、目指す方向性を示す数値を指標としたいと考えております。今後、火葬件数が増加していく中で、安定運営可能な火葬場を実現するには、より効率的な施設の運用が求められます。特定の日や時間に集中している件数を平準化することで、効率的な施設運用につながることから、これまでも予約システムの導入や友引開場について検討しているところです。そこで、第2次計画の成果指標の案として、2つ挙げております。1つは火葬場の予約枠が全て埋まった日数を、令和6年度は1日だったところを0日にするというものです。予約枠が空いていることで、希望日に火葬ができるというものになります。ただし、利用の平準化についての評価がしづらく、また、目標を1日から0日にするというのは、取組が伝わりにくいということが懸念されます。2つ目の案は、友引の日の平均火葬件数で、現状はまだ開場しておりませんので、0件であるところ、30件を目指すというものです。友引の件数が増えることで、平準化が進み、火葬のピークの件数も下がるものと考えられます。また、数字を増やす目標であるため、取組が伝わりやすいというのが良い点となっております。懸念されるのは、予約が埋まっていて火葬できない事例について評価はできないということになります。以上2つの案についても、本日ご意見いただければと考えております。

では元の資料の10ページをご覧ください。No.16ですが、引き取り手のない遺骨と火葬件数について掲載した方が良いというご意見で、こちら掲載させていただきます。

No.17は合葬墓の利用状況の統計に関するご意見で、No.18は合葬墓の運用に関するご意見でした。

続いて11ページをご覧ください。No.19ですが、旧設墓地について、検討から進んだ方がよいのではないかとというご意見でした。旧設墓地については、無縁墓や未許可墓、土葬体埋葬場所の不明など、複数の課題がありまして、長期的な視点で検討を継続する必要があると考えておりまして、第2次計画でも検討としたいと考えております。

No.20です。墓地供給について、民業圧迫しないようにしつつも、市民目線の書き方にすべきであるというご意見、また、民間霊園の活動もあるため、色々考えてほしい、というご意見でした。これについては、市民ファーストとしつつ民間にも配慮するような記載に修正いたします。修正案を表の下部に抜粋して掲載しております。

12ページをご覧ください。No.21ですが、墓地の拡張や樹木葬など新しいスタイルの取り入れには時間がかかるということを記載すべきというご意見でした。これについては問題点として記載させていただきます。表の下部に該当箇所を抜粋しております。

No.22 です。納骨堂に対する指導の関係で、現状の仕組みの中で納骨堂の破綻が起きており、第2次計画では対策を盛り込んだ方が良いのではないかというご意見でした。これについても表の下部に抜粋しておりまして、法律・条例に基づき厳正に対処しますという強い書きぶりに修正をしております。

最後に No.23 です。〇〇を検討するという表現が多いので、アウトプットが見えるような表現に変更してほしいというご意見でした。これについては可能な範囲で前向きな表現に修正しています。

事務局からの説明は以上です。

○石井会長 ありがとうございます。ただいまのご説明につきまして、ご質問やご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○皆川委員 よろしいですか。

○石井会長 お願いします。

○皆川委員 私から2点。まずですね。市民の意識醸成の関係、No.1についてなんですが、もうちょっと具体的な何かが出てくるのかなと思って期待していたのですが、発信については漠然として具体的な内容がなく、取り組み全般について発信するというような、捉えどころがないような回答だったので、残念な感じで、もう少し具体的に札幌市として発信したいことがないのかなという気がするんです。きっとあると思うのですが、そういうことを記載した方がいいのではないかと思います。それから把握についても、②の方で ex.として例示が出ているのですが、こういったことを具体的な内容として膨らませて、こういうことについて把握したいというような書きぶりにした方が良いのかなというふうに思います。

それから、No.23 の〇〇を検討するという表現なんですが、例えば、本文の50ページに山口斎場の大規模改修についての記載なのですが、ここにも「〇〇の検討を進めます」や「検討をしていきます」という表現があって、この前回いただいたご意見という資料では、墓地の項目で括られていますが、この「〇〇を検討する」という表現があまり良くないというのは、別に墓地の記載に限ったことではなく、全体のことですので、50ページ以外にも他にも多々、〇〇を検討しますという表現が散見されますので、ぜひ全体的にチェックをして、修正していただきたいと思います。私の方からは以上です。

○石井会長 ありがとうございます。「検討します」と書かざるを得ないものはあると思うんですけども、検討の具体的な方法まで書いていただいて検討するという言い方になると、検討の中身が制限されるから、実施に向けて検討するみたいなニュアンスはちゃんと伝わるので、ものによって書いていただいているところは、それなりにあったように思うんですけど、さらにちょっと。

○事務局（藤田） 改めまして、墓地以外の部分も確認して、出来る限り。

○石井会長 最初の話も、情報のやり取りの話について、ある程度具体的に書いた方が分かりやすいというところはあると思うので、ご検討いただければと思います。よろしく願います。

○事務局（藤田） はい、ありがとうございます。

○石井会長 他にいかがでしょうか。せっかく皆川委員から始めたので、中島委員はいかがですか。

○中島委員 ちょっと今来たところなので、すみません。

○石井会長 では、とばしまして、廣部委員、よろしくお願いします。

○廣部委員 そうしましたら、私からはこの追加の資料の取組に関してなんですけれども、友引の平均火葬件数を0件から30件にするということで、その数字の根拠は市民アンケートの結果に基づく割合から出しているということだと思います。これについて、札幌市さんの方で何か施策を打った上でこの数字が伸びたというよりは、時代の変化と共に自然と伸びたものであるのかなと思いますので、今後何か施策を進めるという意味で行くと、むしろこのアンケート結果が上昇するような施策を打つことがすべきことであって、その結果として友引の火葬件数が増えるべき、というところが、成果指標になるべきなのではないかと思いました。言い方を変えると、この30件という数字は、アンケート結果上、友引に抵抗がない方が増えているので、自然にここに達する可能性が高いのではないかと思いますので、目標とするのであれば、ここを少し上回るような数字設定にした方が伝わりやすいのではないかと思います。以上です。

○石井会長 ありがとうございます。これは私が思いつきで言った成果指標なんですけれども、いずれにしても、何を指すかということができるだけ分かりやすい指標にした方がいいというのが基本的な考え方です。アンケートの結果については、大分ブレますので、できるだけ分かりやすい具体的なものを指標にした方がいいかなと思うのですが、実際に30件が妥当なのかどうかは、全く評価できないので、おっしゃるところはその通りなんですけれど。

○上田委員 ご指摘の内容はごもっともだと思うんですよ。これ平準化が目的なわけじゃないですか。であれば、普通に考えれば、平均取った時の標準偏差ですよ。標準偏差が○

○以内っていうのは、ある意味、平準化の指標としては最も客観的です。なので、ちょっと統計上、標準偏差について、数値として何を定めるかの方がいいのかっていうのは、私、今すぐには計算できないんですけど、平準化という意味では、標準偏差を指標にしておいた方がいいような気がします。友引の件数というと今のように色々な話が出てきますし、その妥当性が何なのかっていう話になっているので、いかがですか。一応、案の1つとして。

○石井会長 なかなか100%フィットする指標は難しいんですけど、少なくとも努力するターゲットであるような指標の方が設定しやすいので、予約枠がすべて埋まるかどうかというのは、努力の結果ではないので、むしろ割り切りとしてはそうじゃないものの方が合理的かなっていうのがベースの考え方です。おっしゃっていることは、その通りなんですけれど。どうもありがとうございました。

高橋委員いかがでしょうか。

○高橋委員 私からは、運営計画の方の35ページ、この「返還」の横に「墓じまい」とい

う言葉がありまして、返還してほしいから「墓じまい」と分かりやすく書いていただいているんだと思うんですけど、これは私の感覚なんですけど、最近どうもこの言葉はちょっと違う温度を感じる時があって、した方がいいとか、するもんだとか、そういう温度をちょっと最近感じるようになってきて。この返還してほしい、分かりやすく書いているんですけど、これがどうも違うような感じに進むような気がしている時があって。こういう計画にこれを書くと、してくださいという感じじゃなくて、行政から逆に言われているみたいな感じになってしまって、またちょっと違う感じが出てくるのかなという気がしています。これについて皆さんに確認したことはないのですが、最近それが心配というか、ちょっと違う動きが出てきているのかなというのが心配で、ここに書くことがいいのかどうか、「返還」だけでもいいような気もしています。

もう1つはですね、この旧設墓地がなかなか進まないというのが、No.19ですね。このあたりのことで、今回、再販についてもいろいろ民間のことも考えながらみたいなのところも盛り込んでいただいたんですけど、この旧設墓地は、80%ぐらいは使いたいと言っているようなので、再販の時に、そちらに移ってもらうみたいな促し方をして、旧設墓地の整理をするみたいなことを検討してみたいかなという気がちょっとあったんですけど。返還数のこともあるので、なかなか難しいと思いますけど、私としては、そんなような取り組みもいいのかと思いました。以上です。

○石井会長 ありがとうございます。今のご意見だと、「墓じまい」ってわざわざ書く必要性はなさそうですので、ご懸念があるということであれば、それをご検討いただいて、必要かどうかという点だけ、もう1回見直していただければ良いかなと思います。旧設墓地の話は、方向感の話で言うと、この協議会でもずいぶんいろいろ意見が出ているわけですね。極端に言ったら、公園化できないかみたいな話まで出しているわけなんですけど、今のまま置いとくのは、いろんな意味で問題だというのが共通認識になっているのではないかと思います。

○高橋委員 少しずつ空けてみれば、公園化とかいろいろなことに進むのかなと。

○石井会長 私もちっと事前説明の時に意見を言ったんですけど、すぐにできないにしても、公園化のような、そういうことを視野に入れて検討するみたいな、方向感が出るような検討というふうに書かないと、あまり何をするかよくわからない。結論は出ていないし、もう少し課題をちゃんと整理しなくちゃいけないんだけど、結構議論しているので。もっと市民にとって活用できないかということも含めて、考えていく必要があるというのが私たちの議論している視点だったと思うので、そういうニュアンスは私も入った方がいいかなというふうに思っていて。限定的に、もっと分かりやすくどうするかということで、高橋委員がおっしゃったようなこともあるんだけど、考え方としては、どういう方向にもっていくかみたいなことについて、もう少し入れていただいた方がいいかなと思って、その中身をこれから考えていくという話できないかと思ったところなので、ご検討いただければと思います。

中島委員、そろそろいかがでしょうか。

○中島委員 火葬場の成果指標の資料についてですが、案②として、友引の件数は、今は開いていないので0件、開けることによって30件というのは、正直ここまで一気に数字を伸ばすのは難しいのかなという気がしています。これは簡単に言うと、現場の声をあまり聞いていないのではないかなという気がします。僕が現場で対応しているのは、友引関係については気にしないという人もいますけど、周りの人の声を聞いて、やはり友引は出たくないという声が意外と多いということがあります。ですから、アンケートをとっていますが、これが全てではないような気がしています。それから、市民ファーストで考えると、今の時間予約等についても、ご遺族の方にしてみれば、仕方なく受け入れている部分が多々あります。この時間しか空いていないので、というやり方になっているので、もう少し配慮していただければ、市民のためになるのかなと考えています。あと、副葬品についてですが、火葬場で10円玉事件と言われているようなことがあったみたいですが、それについての対応が、僕が聞いている範囲では、ちょっと度を超えた対応を火葬場の方でしているということで、我々組合でも、近々会議をする時も議題にもう既に上がっているので、その辺を考えていただければと火葬場には思っております。

○石井会長 ありがとうございます。度を超えたというのは結構なんですか。

○中島委員 副葬品ということで、10円玉の件で蓋を開けて取り出させたという話を聞いていますが、そういう対応をしたことで我々の方に苦情が入っています。

○事務局（藤田） 計画の話とは異なるので。

○中島委員 違うんですけど、我々としては言う場面があまりないので、言わせていただいたということです。

○石井会長 最後の話は、別の話として聞いていただければ。

○中島委員 耳に入れておいてください。

○石井会長 友引開場の話もご指摘ありましたけども、おっしゃる通り、すぐに受け入れられるかどうかというのをやってみなきゃわからないみたいな話になって、いろんな見方がある中で、どうするかという話はおっしゃる通りです。30件というのを目標として掲げることは違うというか、ミスリードするようなことは逆に言うもあり得て、これを目標に出すのであれば、控えめに平均の半分ぐらいはなんとか実現したいとか、逆にそういうところからスタートするというのもあり得るというお話として、私は伺いましたので、やっぱり慎重に進めざるを得ないことも配慮して、目標でも少しずつ増やしたいみたいなニュアンスを上手に出した方がいいという、多分、おっしゃる意味はそういうことだと思いますので。だから、それを無理に実現するというよりも、少しずつ浸透させて、努力していくという絵柄の方がずっと意味があるというご指摘だと思いますので、これを使う時は、そういう受け止め方ができる数字をむしろ目標化するというのが妥当だろうという話にですね。極端に言えば、15件とかそういう数字の方が、受け止め方がわかりやすいという話だと思います。おっしゃる意味はそうだと思いますので、考えてみてください。どうもありがとうございます。

す。

福田委員、お願いします。

○福田委員 それでは、まず私から意見を述べます。合葬墓の関係で、本文は 33 ページ、このスライドでは No. 16 です。引き取り手のない遺骨の関係で、前回ちょっとお話して、取り入れていただきました、ありがとうございます。ただ、このグラフなのですけれども、構想にもこういうグラフで、引き取り手のない遺骨の割合ということで、割合は他都市との比較ですね。これは良いと思います。人口規模が違うため、実数で比較してもしょうがない。ただ、実数にしないと、市民はピンとこないことがあると思っています。どういうことかということ、前回ちょっと言い忘れたのですが、構想の段階で 2017 年度は 409 件です。要するに 365 で割れば 1 日 1 件強、引き取りがない。ところが 2024 年度には 768 件、これは 1 日 2 件強です。今、札幌で 1 日 2 件ぐらいの割合で引き取り手のない遺骨が出ていますよということをきちんと言わないと、パーセンテージで 2 % になった、3 % になったと言っても、ちょっとこれはピンとこないのではないかなということで、できればこれを実数にして、なおかつその説明文もないので、年々ずっと増えて、パーセンテージも増えているし、絶対数も増えているし、ついには 1 日 2 件強になっていますというような説明、さらには、これについては、機会あるごとに市民に情報提供・PR・訴える・啓蒙するという文言は入った方がいいと思います。あと、これは並べ方の問題ですが、この合葬墓が、非常に要望が強いというのは、引き取り手のない遺骨以外の話で、一般の需要が非常に強いということなので、ここに入れてしまうと、唐突な感じがするので、これは合葬墓（合同納骨塚）が、非常に一般的に需要が強いということを言った上で、一方、引き取り手のない遺骨が増えていますよ、これは市民に PR しますよ、最後はあそこに入るところですよという、そういうストーリーにしたらいんじゃないかなと思いました。

それからもう 1 つ、その裏の 34 ページ、合同納骨塚における埋蔵体の推移です。以前から思っていたのですが、1 次計画の中では、横に線が引いてあり、合同納骨塚の上限は 33,120 体です。34 ページを見ると 2025 年度に 33,550 体と記載されていて、突破しちゃうんです。2028 年度までの予想が出ていて、2028 年度になると 48,896 体、15,000 体ぐらい増えちゃう。どうするんですか。60 ページを見ると、新しい合同納骨塚というのは、スケジュールとして 2029 年度に作るんですよ。まあ、そこがいいっていうような事情があったのかもしれませんが、じゃあその 15,000 体ってどうするんでしょうか。どこかに一時的な保管庫を作るのか、それとも現行の合同納骨塚に、よくよく調べてみるとかなりの余力があったということなんでしょうか。その辺を教えてください。

○事務局（藤田） まず、1 次計画に上限というのが書いていますけれども、今、合同納骨塚を利用される方、墓じまいをして遺骨を納める方も増えてきている中で、墓じまいの方のご遺骨がだいぶ少なくなっているということもあって、何体という数え方で言うと、1 体当たり、火葬した直後の方に比べて、ずいぶん容量が少ないということもあり、遺骨が少しこなれて、余分に収まるようになってきているということで、上限もこれからの遺骨の状態によっ

て変わってくるので、今回その 33,120 体と 1 次計画で書いているのは載せないことにしました。それにしても、福田委員のおっしゃる通り、やっぱり数は多いので、これにつきましては、現在の合同納骨塚について、延命化というか、一つのカロートにもう少し納められるような形での改修だとか、少し手を加えることも考えながら、次の新しい合葬墓の完成までもつような形で、受け入れを停止することなく、新しい合葬墓につなげていけるような形で現在の合同納骨塚の利用について、そういったことも新しい合葬墓の計画と併せて考えているところでございます。

○福田委員 わかりました。ありがとうございます。大変よくわかりました。ということは、やっぱり 1 次、2 次の計画の整合性からして、そういう事情でこれは大丈夫だとちゃんと書かないと。

○石井会長 大丈夫だっていうよりは、次の合葬墓を作ることの時期的なものについて、要するにデッドラインに遅れたら困るみたいなことの話も場合によっては必要だし、そこまでの間の暫定対応の措置が必要だということを、むしろ計画なんだから明確に書いていただいた方がいい。ただ、容量が増えたということよりは、容量を増やして、いずれにしても、新しい合葬墓ができるまでは、暫定対応をちゃんとやらなくちゃいけないっていうことを計画としてうまく書いていただくということが必要だということだと思います。

堂本委員、いかがでしょうか。

○堂本委員 2 つなんですけど、1 つは先ほど出ていました友引の件について、私知らなかったんですけど、平成 19、20 年度で大改修時には友引の日 20 件、これは開場されたということなんですか。

○事務局（藤田） そうですね、この平成 19、20 年度というのが、里塚斎場の大規模改修で、里塚斎場が休止していて、山口斎場 1 か所で火葬していた時期になります。その時期、やはり冬場はどうしても火葬件数が増えるということで、冬場に限ってですけれども、友引開場をしたことがあります。その時の、実績ということで書いています。

○堂本委員 ということは、山口斎場については、半年ですけども、友引開場してもうまく回っていたということですね。当然ながら人の問題、設備の問題があると思うんですけど、それはそれで何とか、スムーズかどうかは別にしまして、やっていたと。

○事務局（藤田） そうですね、その時期は回っていました。

○石井会長 体制を作ったということでしょう、その時期だけ。

○事務局（藤田） その時期だけ開けるような形で。まだその当時、平成 20 年ぐらいなので、火葬件数も今ほど多くはなかったということはあるかと思うのですが、山口 1 か所で、友引含めて全市分なんとか。結局、友引は 1 日 18～20 件ぐらい、やっぱり通常の日よりはぐっと少なかったっていうのもあるので、そういう意味では、なんとか受け入れることはできるかというところです。

○堂本委員 何故それを聞いたかという、そういう経験があるのであれば、元々の、当然ながら里塚斎場を含めたところで、当然設備も色々と思うんですが、前から言ってい

るように、もっと早くできないのかなと。体制がそういうふうに進んでできたよと、問題点、課題点が出たよと、そう思うんですよ。それで、目標は1次計画では開場するになっていますが、どうしてこの辺ができなかったかなというのは正直疑問に思ったので、その辺の話をさせていただきました。これは苦情とかそういうのじゃなくて、経験があるのであれば、そのことをもう一度やれば。多分メンタルの問題が大きいと思うんですよ、人線りの問題と。その辺が多分できるんじゃないかということで、ちょっと疑問に思って、話させてもらいました。

それと全体の話もあるんですけども、先ほども出てますが、いろいろ検討となっていますけど、一番私のがっかりしたのは、先ほど出ましたNo.19のところですね。何か出るのかなと思ったんですけど、普通、民間で言うと、例えば3年計画があれば、それなりの構想と言いますか、どんな風なことが、こんな風なことが、そういうことも含めた中でこれを主題にして検討していきます、そういう書き方をするし、そういうことをやらないと、皆さんも納得しないと思うんですけども。これは先ほど皆さんがおっしゃっているように、もう少し具体的にしなければいけないので、あえてそれは言いませんけども、何らかの方向性は、これでしたら、公園化しますと、その方向で検討します、その中でこんな課題があるので、それを、いつまでにクリアしていくと。例えば、市民に出して、こういうことが課題ですよ、そういうことを考えていますよ、と。逆に意見はありますか、問題ですか、ということの投げかけをするというふうな書き方をもっとしていただきたいと思いました。これ、他のところとも全部絡むんですけど、そういうことを考えました。

○石井会長 友引開場の話は、体制を整えるのに時間がかかった面はあるでしょうけど、速やかにやっていただくということしかないと思いますね。こういう方向でご検討いただくということと、旧設墓地の話はこれまでも何人か出た意見でございしますので、書きぶりについて、もう少し工夫できないかどうか、というところになると思います。

澤委員、お願いします。

○澤委員 私は先ほど福田委員から出た平岸の合葬墓の件で、あそこが満杯になったらどうするということふうに心配している市民の方がいっぱいいらっしゃるだったので、本当にそこを具体的に出せるんだったら出した方がよいなと思ったのと、細かいんですけども、7ページの1番の計画策定の目的・趣旨の下から7行目に「お墓は子や孫の世代の負担にならによ合葬墓や…」とあるんですけど、私が相談を受けたりする中で1番多いのは、子どもや孫の迷惑や負担よりも、承継者がいないというのがあります。ずっとシングルで来て、親の先祖代々のお墓を墓じまいしたりとか、結婚したけれど子供ができないとかいないとか、子供がいるけれど孫がいなかったりとか、そういう方がとても多くて、そこの方たちは、合葬墓とかを検討しています。お葬式に関しては、子供や親に負担をかけたくないというのが多いんですよ。だけど、お墓に関しては承継者がいないというのがすごく多いので、そこを書いていたのが良いかなと思いました。

○石井会長 前段は話がありました。後段の方の継承者がいない問題は、今の時代背景から

いうと一番大きな問題かもしれないんで、認識として、うまく書いていただいた方が分かりやすいかと思いますので、ご検討いただければと思います。

上田委員、お願いします。

○上田委員 私も何点かあるんですか、まず初めに札幌市の職員の皆さん、すごく丁寧にまとめてくださったのが驚きで、感動していて、素晴らしい良い仕事をしていただいてありがとうございます。お礼を言った上で、すごく分かりやすいので、今日議論がしやすいなと思いました。

まず、この No. 3、No. 4、No. 5 ですね。44 ページなんですけれども、先ほど高橋委員からも墓じまいの話があったと思うんですが、ちょっと似たような話です。44 ページの下の参考指標と成果指標のところは、終活イベントの参加者数ということで、これ、もっと若い人とか来た方がいいんじゃないかって話をした時に、そのイベントをもはや我々は「終活」イベントと呼ぶ必要があるのかという点が気になっていました。終活イベントというのが、高齢者向けだったり、終活している人を対象としているから終活イベントというのであって、終活していない人にも来てもらうイベントなんであれば、それはもはや終活イベントじゃないのではないかと、だから何なんだという話もあるのですが。これはもはや終活イベントと言わない方がよくないですかね。例えば、単にイベントにするでもいい、というのは思いました。もうちょっと、分からないですけど、終活イベントならまだ生活イベントとか良いような気がしますけど、っていうのがちょっと冗談ですが、一つ目ですね。言葉の定義、先ほどの墓じまいと同じです。2つ目が先ほど出てきていた、16 番の 33 ページ、これ先ほど福田委員のご指摘だったんですけど、もう 1 回確認なんですけど、私は割合でいいような気がしていて、何故かと言うと、この割合を出してる母数っていうのは、火葬を母数にした時の割合なんですよね。なので、もし実数にしちゃうと、縦軸の単位が件数で左と一緒にしちゃうんですよね。縦軸を一緒にすると、この 0.4% や 2% とかって、単位を揃えちゃうと、見えないじゃないですか。なので多分、実数にはできないというか、しない方がいいんですよ。やっぱり割合にせざるを得ないんですよ、グラフ上。なので、これは割合の方がいいのかなというふうな気がしました。もし、その火葬件数が母数で、そのうちの引き取り手のない人が 2% なのであれば。じゃないと同じ縦軸になってしまうので、あえて単位変えての方が良いと思いました。グラフの表示の仕方の話です。続いて No. 19、No. 20 で、No. 19 は 67 ページ、これについてはもう常に皆さんご指摘のとおりだと思うんですけど、旧設墓地の話ですね。下の参考指標のところは 2030 年の目標値で決定って書いてあるんですよ。下のスケジュールのところも旧設墓地維持管理方針の検討・決定と書いてあります。決定と書いてあるにもかかわらず、本文は検討します、なんです。これまさに、皆さんがおっしゃったように土地利用や計画について検討し決定します、というか計画を策定しますと書くべきだと思います、決定とスケジュールで書いているので。結局、私もいるし、北造業の皆さんもいるので、ちゃんとこれ計画作りましょうって話ですよ。あくまで計画でいいので、次期の期間内に計画は作る、というふうにした方が、ここも決定って書いてあるわけだし、

計画を策定します、にしていただけると良いかなと思います。No. 20 の 35 ページなんですが、上の第 2 段落ですが、「里塚霊園の造成終了は市営霊園の拡張をせず、墓地の供給は民間に委ねることを基本方針としていることから、再公募の数および時期については、市民ニーズに加え、民間墓地の供給（経営）に与える影響も考慮しながら決定する必要があります。」という、この書きぶりのところなんですけど、どうですか。

○石井会長 これ、前提の話は、トータルとしての新設の話でしょう。だから、空きが出た話は最初から含まれないから別の話としてやってるわけです。この方針が、そもそも出てくること自体がおかしいわけですよ、と私は思うんです。だから、市民ファーストって、こっちのパワーポイントの方には書いていただいているのに、こう書いたら市民ファーストじゃないんで。実際にやる事が変わるという意味では全然ないんだけど、ちゃんと配慮しなくちゃいけないことを配慮しろってことは、やらなくていいって話じゃないんだけど、ニュアンスとして市民ファーストっていうのは、こういう話ではないので。かえって誤解されるような書きぶりなので、私はちょっとどうかなと。

○上田委員 私だったら 31 ページの下にあるような、このぐらいの文章でいいんじゃないのかなと思います。

○石井会長 だから当然バランスをとってやるよって話は、誰も文句は言わないので。

○上田委員 まあ書き方ですけど、31 ページの書きぶりにしておかないと、まさに今、石井先生がおっしゃったように、誤解を招くような。

○石井会長 これまでの議論はそういう話なので、別に実態をとにかく言うんじゃないくて、考え方としては、市民への対応が一番大事だという話です。ただ、事業者配慮は当然やらなくてはいけないことなので、それはやりますという、普通の話です。

○上田委員 私が申し上げたかったのはこんなところですよ。以上です。

○福田委員 ちょっといいですか。

○石井会長 どうぞ。

○福田委員 今の発言の関係で、まずグラフの関係、これは分かりました。ただし、そのパーセンテージで、出すのがいいとしても、パーセンテージでピンとくるかどうか。

○石井会長 下に件数入れてもらったらいんじゃないでしょうか。件数を入れるのは簡単だから、入れてもらったらいと思います。

○福田委員 それでいいんじゃないですかね。

○事務局（藤田） グラフはグラフとしてその下に置いて、実数を何件っていう感じでしょうか。

○福田委員 要は、私の言いたいことは、パーセンテージで言われてもピンとこないということで、実数じゃないとピンとこないのではないかということなので、どこかに入っていればいいんですよ。あと、もう 1 点、終活の関係なんですけど、これは私が常々思っているのですが、あまり「終活」という言葉を使わない方がいいのではないかと思ったんです。何故かという、終活というのは条例で決まっているとか、そういうものではなくて、マスコミ

の造語ですから、どんどん人によって、時代によって、範囲が変化しちゃっている。人によってはこれが終活だと思っている、だけど、別の人にはまた別の終活だと思っているということで、イメージが人によって様々になってしまって、最近は若者の終活というものもあるのだそうです、人生設計という意味で。そういうように、かなり融通無碍に使われている言葉なので、この計画ではあまり使わない方がいいのではないかと思います。

○石井会長 最初に皆川さんから意識醸成の具体的なターゲットについての話がありましたが、こういう話は分かりやすいですね。結局、全世代に広げて意識を持ってもらうという話が大きな1つのテーマじゃないですか。だから、例えばそのために終活は言葉として我々は使わないとか、分かりやすいメッセージの一つとして、そういう話をしてみるのも意味があるかもしれないので、あまり混乱させるという意味ではないのですが、基本的にはやっぱり世代を広げて、浸透させていくというのが結局大きな目標ですよ。だから、そのあたりを少し変えていくと、あえて終活を卒業して全世代に発信するとか、そのようなことをどこかにうまく盛り込むと、変えていく意識が伝わるかもしれない。なかなか行政計画では難しい面があると思うんですけど、ちょっとお考えいただいてもいい視点というか、要は市民の意識にどうつながっていくかっていう話になるので、その話はちょっと考えてみてもいいかと思いますので、少しご検討いただけましたら。

○澤委員 私、5、6年前だったかな、札幌大学で学生さん相手に授業の一環で、地域の住民の方に来てもらって公開授業をすることがあったんですけど、学生さん40~50人いらして、お葬式の話をしたんですけど、こんなの興味ないだろうなと思って話したんですけど、感想でもらったのがびっちり書いてあって、自分のおじいちゃんおばあちゃんの時の葬式のことを思い出してこうだったとか、若い友達で亡くなった人がいて、そういう自分の将来のことを考えてしまったとか、そういう感想がすごくあったんですよ。だから、大学生でも全然、すごい将来の話ではなくて、身近にこう投げてあげれば、そのテーマについて話をする、そういうのがあるんだなと思いました。

○石井会長 結局だから、多死時代って、若者とか、もっと低い年齢層にとっても死に直面する機会が増えるってことですよね。だから、その意味では世代を問わず認識せざるを得ない時代に入ったみたいな、時代認識の捉え方ができるので、逆にそういう見方をもう少し打ち出してみるのを、こういうターゲットに対して、そもそも遠いというだけの認識で、遠いから近づけるだけの話ではいつまで経っても近づかないかもしれない。そういう懸念があるから、身近な話でしょう、という問いかけは案外大事な話かもしれない。澤委員が今おっしゃっていることは、多分そういうことを、むしろもっと認識してもいいんじゃないかという話になるので。0から始めると、ものすごく距離があって近づけないのですが、みんな1の情報はいくらかも持っているというところからスタートラインになったら、やりようは全然違うわけですよ。それは考え方としては大事な考え方かもしれないので、0からなんとかしなくちゃいけないっていう話は、逆に言うと実際上なかなか難しいから、もう少し入り口は少し高いところから啓発していったら、一定の効果が上げられるっていう認識を持

ってもいいんじゃないかと思います。

○上田委員 私、大学に勤めてるので、結構やっぱり最近学生さんが多いですね、メンタルを病んでしまったり、自死だったりとか、大学としてそういう事例が多くなっている。だから子どもたちの死に対する関心で、意外と、親族の影響というのものもあるけど、自分自身が死について悩んだ経験があったりとかというので、死との向き合い方が自分の中でまだ分かっていなかったりして、なので、こういう話を求めてたり、私、ここの発言にも書いてありますが、デスフェスの話とかさせていただいたんですけど、やっぱり若い世代の来る理由ってそこだったりするんですよ。自分のおじいちゃんおばあちゃんを見送る葬送の話っていうよりは、自分自身が死とどう向き合っているかっていう話だったりして、興味を持ってきてたりするので、そういう意味で、今の話と通じる。そういう世代の人たちが、どういう風にこういうイベントとかに入ってきてってなると、確かに今はやそれは終活イベントではないんですよ。ちょっとテーマが違う、でも同じ保健所のテーマかもしれないですけど、そういう若い人たちという話かなと思いました。

○石井会長 逆に客観的に、死の実像なり尊厳を知っていただくと、そういう人たちの価値観も少しは変わるかもしれないけど、そのものの対策をしようという意味ではないと思うんです。でも、確かにいろんな意識の中で興味を持っているというのは、その通りだと思います。まあ、それをどううまく引き出すかということですね。

私が委員としての意見を言っていないんですけど、言いたかったことが全部出てしまったので、この友引の平均火葬件数を成果指にしたらどうかっていうのは、たまたま思いついていたのは私なんですけれども、さっきも言いましたが、成果指標っていうのは、分かりやすく具体的にというところなので、取り組みの結果として出てくる数字を使っていただく方が分かりやすいので、30件がいいのか、15件がいいのか、20件がいいのか、ちょっとよく考えた方がいいとは思いますが、予約枠がすべて埋まった日数が0日というよりは、違う手法を使っていた方が分かりやすいのではないかという気がいたしますので。案①がいいという意見は今のところ出なかったと思うんですけども、あったら後で出させていただきますが、むしろ案②に沿って、どんな形が考えられるかご再考いただければと思います。

一応、一通り伺いましたが、言いそびれたことや追加的な意見がございましたら、ご発言いただきたいと思います、いかがでしょうか。

○皆川委員 いいですか。

○石井会長 どうぞ。

○皆川委員 内容の関係ではないのですが、体裁というか書きぶりについて気になった点があります。本文の48ページをご覧くださいなのですが、里塚斎場の改修手法のページです。例えば、■の1つ目の里塚斎場の再整備の欄では、上の9行というのは、もう今までやってしまったこと、検討しました、こういう試算しましたって、今までやってしまったことなんですね。それから、一番下のその事業方式の上から5行、これももうやってしまった

ことなんで、これからの取り組み、ここに書くべきなのかなっていう気がするんですけど。こういうやってしまったことってというのは、1次計画の評価だとか、現状の問題点とか、そっちの項目の方で整理して、これからの方策については、〇〇によりやり、これからやることをメインに書いた方が、まあ趣味の範囲なのかもしれないんですけど、ちょっとそういう気がするんですよ。くどいというか、これからやることに対する説明としては、まあ妥当なのかもしれないんだけど、整理する場所が違うんじゃないのかっていう気が私はします。そういう書きぶりのところが他にも多々あるので、どこに書くべきかっていうのをもうちょっと考えていただきたいのと、これが1点。それから、非常に細かいんですが、16ページをご覧いただきたいんですけども、成果指標、参考指標の状況ということが書いてありまして、評価がAからCまで書かれているんですが、目標値に対して現在値が検討中というふうに書かれているのが、2行目から4行目まであるんですね。それで、全部検討中にも関わらずBとCに分かれているというのは、これを見ただけでは分からないんですよ。なんか理由があるんでしょうけど、みんなそれぞれ検討していますよ、検討中ですよという現在値に対して、評価がBとCに分かれるというのは、ちょっと変だなという気がしますね。そこを分かるように書いた方がいいんじゃないかなと思います。体裁と書きぶりの関係で以上の点を指摘させていただきます。

○石井会長 体裁というかフォーマット、フォームの話は、おっしゃっていることはその通りだと思うんですけども、なかなか場所をうまく設定できるところとできないところがあると思うので、逆に言うと、計画に関わる文章をできるだけ前面に出す、少なくとも最初に書いて、それに関わる実績がこうで、そこにつながってやるみたいな話であれば、順番を変えて、なお書きとかで書く。少なくとも、そういった工夫ができる部分があると思いますので、構成上の話として、うまくできるところは見直していただくとして、計画本編というか、何をやるかということと終わったことをどう区分けするか、というところは少し見ていただければいいかなと思います。

この成果指標のBとCは、一応説明できるんですよ。

○皆川委員 ここだけ見ても分からないですよ。

○石井会長 でも、こっちに取組も書いてあるから、それも含めて評価をしたということなので。いずれにしても説明できる話になっていればよろしいかと思いますので、分かりにくいようだったら、何か追加的にコメントを入れるとか、必要だったら考えていただくぐらいはあるかなと。

○事務局（吉井） 第9回の時に、皆さんにこの成果指標のA、B、Cを諮って、それで了承をいただいたので、その結果を踏まえて、脚注を入れるとか。

○石井会長 単に理解してもらっただけの話なので、結果が良い悪いという話ではないですから、違いが分かりにくいところがあれば、コメントを入れていただければと思います。

○事務局（吉井） あと、全般的な作りについても、ご指摘ありがとうございます。我々としてはできるだけ、おっしゃられたように実績と今後やるべきことを整理してきたつもり

ではあるんですけども、どうしても今後やることを書くときに、これまでのことも書いてしまっている部分がありますので、そこは次回お出しするまでに改めて整理させていただきたいと思います。

○石井会長 でも、親切に書いていただいた方がいいと思って。私は分かりさえすれば良いかなと思います。

○事務局（吉井） くどくならない程度に、どうしても少し言及した方が流れるかなっていう部分もあると思いますので。

○石井会長 やることだけ書いたら、なんか読んでも全然面白くないけど、訳が分からなくなってしまうことがよくあるので。

○皆川委員 そうなんですよね。テーマについて、本当に1次計画の評価から現状の問題点、将来やることって、一気通貫で見れると非常にすっきりして分かりやすいんですが、章立てがそうになってないので、書きぶりにご苦労されると思うんですが。

○石井会長 おっしゃってる趣旨はすごく重要なので、もう1回その上で見直していただくということは必要だと思います。

○事務局（吉井） 重複せざるを得ないときは、できるだけその後段の部分が簡略になるように、少しでも読みやすくしたいと思いますので、全部が全部、皆さんの納得できるようなものになるかどうか分かりませんが、そういう努力はします。

○石井会長 全体的にはいろいろ努力していただいています。分かりやすく書いていただいていると思いますので。

こんなところでよろしいでしょうか。

○堂本委員 提案じゃないですけど、今、札幌市でいわゆる婚活と言いますかね、アプリだけれども世の中でもやってますし、そういうことをやっていこうと。先ほどの終活イベントなんですけどね、連動して人生のイベントだよということで、そういうものをやると。そうすると集客もできるし。そんなことを考えることでも、できないんでしょうかね。

○事務局（吉井） まさに今日新聞に婚活の話が出ていたからだと思うんですけども、先ほど上田先生がおっしゃっていたのは、死に対する向き合い方みたいな話と、我々は葬送というか、死をどう迎えるかというところの話で、これからの企画の話ですけども、例えば死に対する向き合い方と我々で考える葬送に関するところをコラボさせるとかということも、企画の上でこれから検討していくことになるのかなと思います。ただ、今の段階で具体的に案があるわけではないので、計画に書けるということではないですが、若者に興味を持ってもらうような観点での企画を考える上で、いろいろな視点で物事を考えていくことは必要なのかなと思います。

○堂本委員 そういうのを混ぜ合わせれば、まだ興味も湧くのかなという状況は感じています。

○上田委員 指標的には他部局に乗かって稼げますね。

○堂本委員 興味がある人となない人がいますけど、人も集まるだろうし。

○事務局（吉井） なかなか極端なライフスタイルの中でのイベントになるので、どういふふうに組み合わせられるのかというところが、ちょっとすぐにイメージがわかりません。

○堂本委員 札幌市でやっている、いろんな人生やライフスタイルのイベントがあります。こんなことで、勝手なご意見でした。

○事務局（吉井） ありがとうございます。

○石井会長 札幌市は部局横断的な試みは難しいので、おっしゃっていただいている姿勢は大事なんだけど、なかなか難しいので。自治体が行っていただくときには、ちょっとアイデアとして、是非使っていただければよろしいかと思います。

それでは、今日も大分意見を出していただきましたけれども、ある程度収斂するような形でご意見をいただいたかと思いますので、もう少し修文も含めてご検討させていただくというようなことで、お願いしたいと思います。

3. 開 会

○石井会長 それでは事務局の方で何かございましたらお願いしたいと思います。

○事務局（藤田） 今日はどうもご議論ありがとうございました。次回ですが、7月17日に総会の開催を予定しております。場所は本日と同じくORE札幌ビル8階大会議室になっております。よろしくお願いします。以上でございます。

○石井会長 それでは、今日も活発なご議論ありがとうございました。これをもちまして、第11回総会を閉会いたします。